

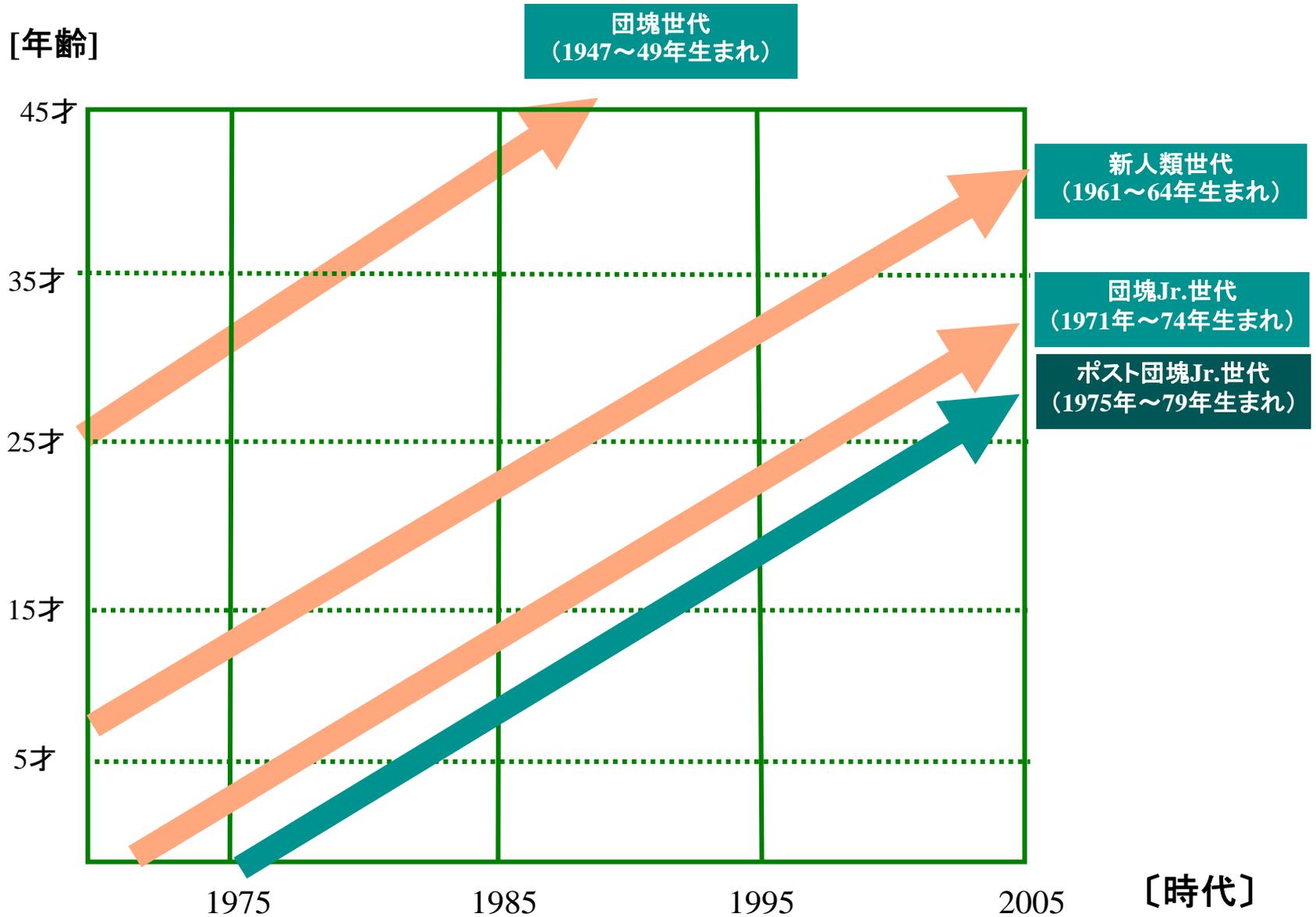
ターゲット⑦〔事例〕世代

ターゲットとしての世代：ポスト団塊Jr.

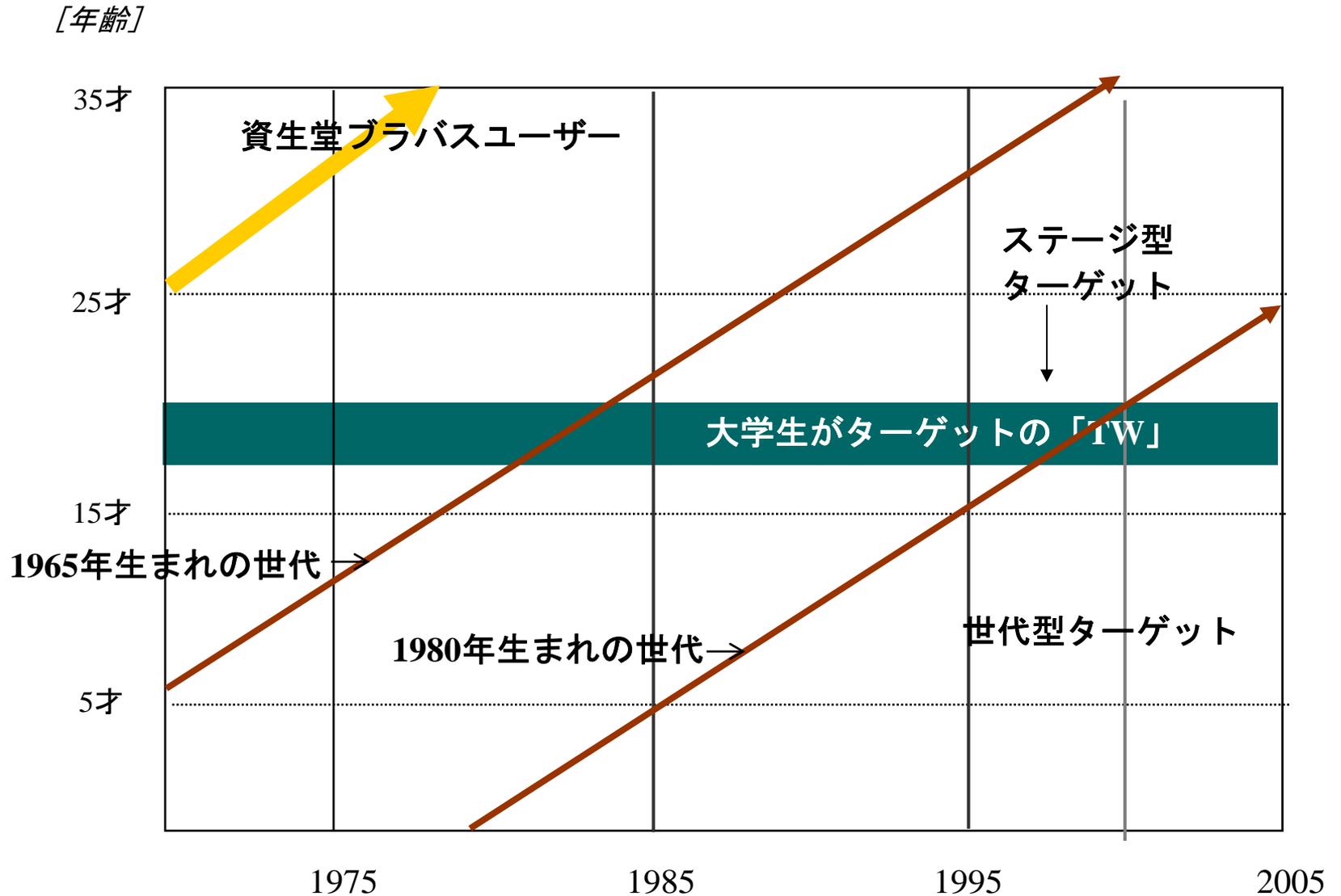
団塊Jr.の次の世代の社会意識・生活意識の特徴は何か？
「ポスト団塊Jr.世代」の生活ヒストリーと流行現象から考える

時間感覚、空間感覚、関係感覚の変容

世代 時代と年齢



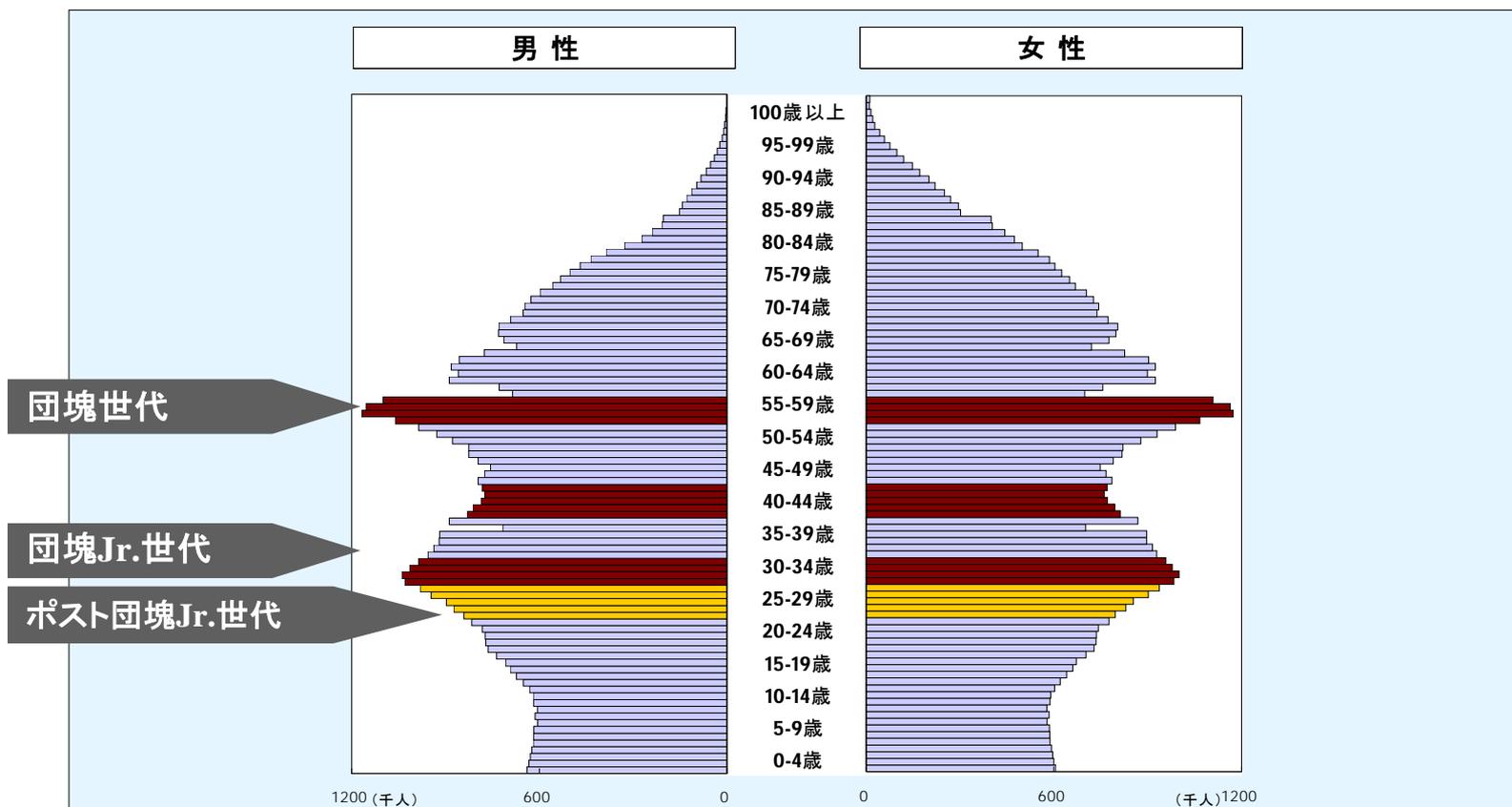
★ TWのユーザーは18~20才の男女であり、読者は「入り、出ていく」通過型である。



「団塊Jr.」の次の世代を「ポスト団塊Jr.世代」と呼ぶ

1975～79年生まれ

人口ピラミッド



資料) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成9年1月推計)

世代特性

ポスト団塊Jr.世代

1975年～79年生まれ

団塊Jr.世代に続く少子化の始まりの世代で、人口ピラミッドが再び減少する世代。

ひとりっ子が増え、希少性からちやほやされて育ち、ルーズソックスとポケベルで高校生時代をすごしている。

世代の社会意識／生活意識の特徴

① 時間感覚の変容

際レス

イマ至上

② 空間感覚の変容

モバイル自分部屋

トランス・ナショナル

③ 関係感覚の変容

リセット・スタンス

ウムの壁

時間感覚の変容

生まれたときから飽食、成熟社会だった彼らには、段階的あるいは経験的成長意識は希薄である。

また、小学生の頃から塾に通い、夜中に友だちと街中を飛び回り、いつでも開いているCVSが溜まり場だったため、自然と生活の24時間化が染みついてしまった。

オトナコドモでもある彼らの時間感覚は、社会人になった現在でも明らかに他世代とは違う。彼らが大切にしているトキとは、正確に規則正しく刻むものではなく、突然やってきて束縛しないものなのである。

際レス

朝・昼・夜など、既存の時間概念に縛られることはない。
年齢・性別の持つ意味もまた希薄化している。
カテゴリー的に捉えない。目的・手段という区分がない。

- ステップ/成長などの時間で捉えない。
無エイジング、無ステップアップ。
- 朝食、夕食などの区別をしていない。
食事とおやつ・間食の境界もあいまい。
- 女らしさ、男らしさ、大人らしさなどの他
を基準にした「らしさ」志向がない。
- 他と違うことで自分を確認、自分を演じる。
化粧も遊び。遊び感覚で自己表現。

イマ至上

イマが大切である。瞬間的に判断する。
つながりや流れで捉えない。将来から現在を捉えない。
過去もトレンドとして捉えてしまう。

- イマこの時間をどう楽しむかが大切。目の前にあるものがすべて。本当に欲しいものは躊躇なく、即購入。価格も気にならない。
- 食べものは自分の好きなものに固執するため、ワンプレート。流れ・コース料理は苦手。
それぞれが完結。
- ハレとケの意識は希薄。
ワンシーン、ワンショット的的人生観。
- 一生つきあうような親友より、イマのたくさんの友人を志向する。

空間感覚の変容

小学校になると自分の個室を持ち、ファミコンでロールプレイングゲームをして育ち、中・高ではウォークマンを聞きながら移動し、本を読む。そして大学では携帯電話を愛用していた。

いつでもひとりになりきれ環境は、当然のように彼らの空間感覚を独特のものにしてきた。他人の迷惑よりも自分の世界、空間が大切。

さらにすぐにその世界に浸りることができる。合理主義や利己主義ともちょっと違う自分中心主義は、彼らの空間感覚から生まれてきているのではないだろうか。

モバイル自分部屋

どこも自分の部屋世界になる。
自分の部屋＝カプセルが移動体化している。
公共的な場でも、場の状況設定をしないで、他人を
気にしない。

- どこでも自分の部屋感覚。身に着ける、持ち歩けるモノ志向。かわいさ。
- 自分は何処にいるか、ではなく誰といるか、何しているか、がシーンを決め、場を決めていく。
- 空間的な場を感じない。(電車の中にいる、のではなく、ひとりで暇な時間だ)
- 電車の中での化粧や食事も気にならない

トランス・ナショナル

日本もエスニック。
洋風・和風という区分がない。
和に対して、ネイティブ感覚はない。

- 生まれた時からTDLがある。マクドナルドは日常世界で街のパン屋みたいなもの。ファーストフードやファミリーレストランがアメリカからきたものとは考えても思ってもいない。
- 和が新鮮。国籍など文化を国では捉えない、J-POPも洋楽も同じ。
- 浴衣を夏のファッションとして斬新に感じたり、ミニ盆栽や苔桃はWA風インテリア
- 「和は自分のルーツ」という意識の芽生える可能性はある。アメリカ育ちの日系3世が日本に興味を持つ感覚。

関係感覚の変容

個室文化や、いつでもやり直しがきくファミコンゲーム、ポケベルや携帯電話への執着は、リアリティなき人間関係の構築を容易にし、「いじめ」「援交」はそれを加速させていった。

高校時代に一大ブームを引き起こしたプリクラは、彼女たちの独特の関係感覚を具現したわかりやすい例でもあった。

緩やかだけど多くの人、モノとつながりたい。自分の関係しているものだけを選びたい。一方的な約束手形の乱発のような奇妙な感覚こそがポスト団塊Jr.世代の感覚。

リセット・スタンス

自分を社会的に固定することを嫌う。
頑固に一筋を嫌い、気軽にあきらめる。
身軽に浮いている状態を志向。

- いつでも止められる、強く結びつかない、離脱可能性。イヤだったら止められる、逃げられる。
- 就職して自分を固定するよりもフリーターを志向する。
- 一流企業志向がない、手に職、持ち歩けるものを志向。都合が悪い、おもしろくない場合は辞める。
- 食べ物も、自分がおいしくない、不快と思ったモノは即捨ててしまう。我慢して食べる、再度手を加えることはほとんどない。

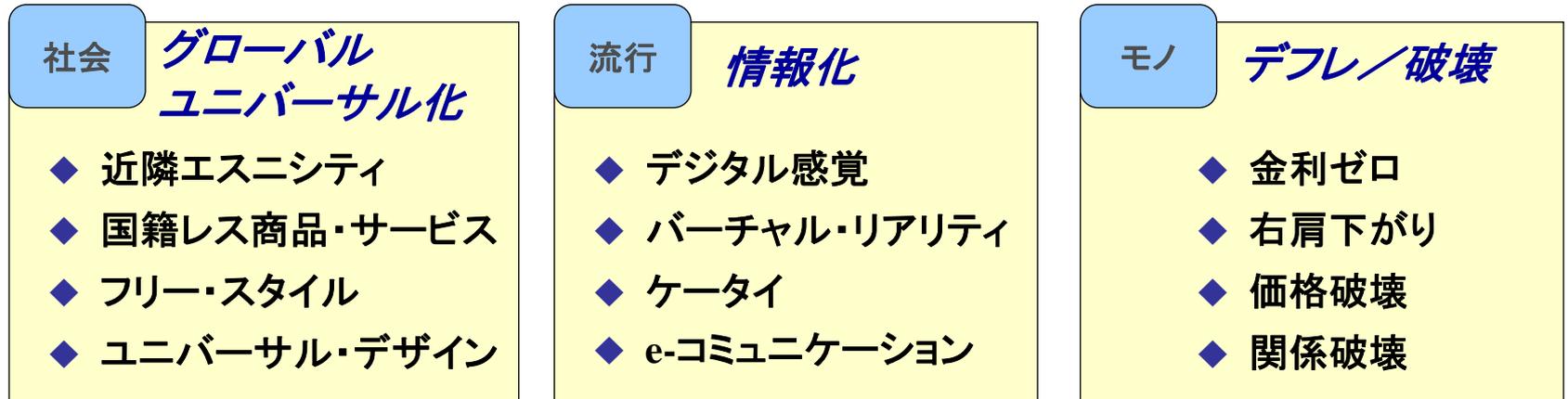
ウムの壁

新聞で情報を一覧するのではなく、最初からパソコンで欲しい情報だけを取捨選択。関係ないものは無視する。「嫌いなものは嫌い」以前に、存在を認めていない。関係あるものを自分たちの世界の入れる。

- かつて「よい・悪い」が、「好き・嫌い」になった。しかし、いまは「関係ある／関係ない」で識別している。嫌いになる前に「関係ない」と切り捨てる。
- 同じ電車に乗る「おじさんやおばさん」は「関係ない」人たちであり、存在しないのと同じ。だからその視線も気にならない。
- 自分の関心や趣味に関わることについてはオタク的に広く深く関わり、自分自身でも情報発信したりする。反面、自分の関心の薄いことについては、世間に流布されたメジャーな情報をつまんでは捨てていく。

ポスト団塊Jr.世代は、成育環境が作りだした世代特性、とくに日本の経済社会が転換した90年代という時代環境に大きく影響され、他世代とは異なる感覚が生まれている。

90年代:時代環境



感覚の変容

① 時間感覚の変容

際レス

イマ至上

② 空間感覚の変容

モバイル
カプセル

トランス
ナショナル

③ 関係感覚の変容

リセット
スタンス

ウムの壁